



松小だより

9月号
高松市立松島小学校

「夏休みの思い出」

長月となりました。日中はまだまだ日差しが厳しく暑いものの、朝夕はとても過ごしやすくなり、諸処にコオロギの鳴き声を聞くようになりました。

学校には子どもたちの元気な声が飛び交い、活気が戻ってきました。一段と成長した姿からは、約40日間に日頃できない体験や経験をしたことがうかがえました。

一学期後半も充実した学校生活となるよう全力で取り組む所存です。ご協力よろしくお願ひします。

さて、教職員も夏季休業中には、研修の機会が多くあったり、職員作業があったりして、普段以上に忙しく充実した日々を過ごしました。松島小学校・高松第一中学校に関係したものを少しご紹介すると

○7月27日、8月4日、20日…22年度の高松第一小・中学校の教育カリキュラム作り

○7月30日…地域の方々への校舎見学会（約280名来校）

小中教員が案内のお手伝い

○8月21日…人権・同和教育に関する研修を四校合同で実施

○8月25日…市内教員・PTAを対象に小中一貫教育成果発表会の実施（約200名）

○8月28日、31日…校内環境整備職員作業及び運動場の整備

等の研修や作業などをしました。日頃なかなか時間を確保しにくい《多目的教室での発表会の様子》統合に向けての準備も時間を確保し進めることができました。

私自身は、8月29～30日に社会科フィールドワーク（同好会）で瀬戸内海の直島・櫃石島・本島等の島々を訪れてきました。心配していた雨も降らず、海も荒れず、天候に恵まれて島々を行き来することができました。なかでも、ハマチの養殖・直島環境センター・本島にある塩飽勤番所・鞆の浦の町並みなどを専門の方に案内・説明していただき本物を知ることの楽しさを味わいました。研修で学んだことは、

○それぞれ島には、島特有の歴史と文化がある

○海上交通は重要な産業である（1日1500～2000隻が往来）

○海は障壁ではなく、船があれば自由に行き来できる

○町並み保存や新しい文化が創られている

○海と山はいろいろな意味で結びついている などなど

直島はアートやリゾートなどで、海外によく知られていることや、幕末に勝海舟が率いた幕府使節団の警護船「咸臨丸」の水夫のほとんどが塩飽出身者であったことなど、恥ずかしながら知らなかったことも多くあり、充実した研修になりました。もちろんおいしい海の幸も頂き、島に住む方々の厚い人情にもふれることができ貴重な経験となりました。



《福山市鞆の浦にある金比羅の方角を示した高さ日本一の常夜燈》

【歴代校長先生を囲む会】

閉校記念誌に掲載するため、「歴代校長先生を囲む会」と7月15日に新校舎で実施しました。7名の校長先生方がお集まりくださり、その当時の思い出をお話ししてくださいました。特に、95歳になられる樋笠校長先生は、とてもお元気で自転車に乗っておいでになりました。先生は、思い出を語るメモを予めご準備され、その当時の思い出を語ってくださいました。どの方のお話も、「背筋をきちんとして聞かない」と思ういいお話でした。



《歴代校長先生方》

詳しくは、発行される閉校記念誌をお読みください。

【全国学力・学習状況調査結果の公表についてのお知らせ】

4月21日に実施しました文科省全国学力・学習状況調査結果の全体が先日公表されました。お子様の状況につきましては、1学期末の個人懇談会の折りに担任より個人票を配布し、個人結果の説明させていただく予定です。